

全ての子どもが輝くために、充実した支援を目指して

NO. 21

## 特別支援教育推進通信

平成31年2月5日

葛南教育事務所 指導室

特別支援教育班

### わかる授業づくり(授業のユニバーサルデザイン)その4

平成29年度に行われた『小・中学校新教育課程説明会（中央説明会）』における文科省説明資料には、以下のように新しい学習指導要領の考え方がまとめられています。

※説明会資料については、文部科学省のホームページから見るすることができます。

#### ○ 「主体的・対話的で深い学び」とは何か

「主体的・対話的で深い学び」の実現とは、特定の指導方法のことでも、学校教育における教員の意図性を否定することでもない。人間の生涯にわたって続く「学び」という営みの本質を捉えながら、教員が教えることにしっかりと関わり、子供たちに求められる資質・能力を育むために必要な学びの在り方を絶え間なく考え、授業の工夫・改善を重ねていくことである。

#### ○ 単元等のまとまりを見通した学びの実現

また、「主体的・対話的で深い学び」は、1単位時間の授業の中で全てが実現されるものではなく、単元や題材のまとまりの中で、例えば主体的学習を見通し振り返る場面をどこに設定するか、グループなどで対話する場面をどこに設定するか、学びの深まりを作り出すために、子供が考える場面と教員が教える場面をどのように組み立てるか、といった視点で実現されていくことが求められる。

#### ○ 発達の段階や子供の学習課題等に応じた学びの充実

「主体的・対話的で深い学び」の具体的な在り方は、発達の段階や子供の学習課題等に応じて様々である。基礎的・基本的な知識・技能の習得に課題が見られる場合には、それを身に付けさせるために、子供の学びを深めたり主体性を引き出したりといった工夫を重ねながら、確実に習得を図ることが求められる。

新学習指導要領について整理し、わかる授業づくりに取り組むために、『ユニバーサルデザインの考え方に学ぶ どの子も「わかる」「できる」をめざす支援の工夫 ヒント集』に掲載されている指導案を例に考えていきます。

※指導案には支援の工夫の仕方が、**情－(1)－(1)**のように表記されています。支援の工夫については、千葉県総合教育センターのホームページよりご確認ください。

# 指導案から考える

## ※『ユニバーサルデザインの考え方に学ぶ

どの子も「わかる」「できる」をめざす支援の工夫 ヒント集』より

### 2 展開部分の記載例

#### (1) 国語 小学4年「ごんぎつね」

- ①目標
- 教科の目標【読むこと】
  - 根拠となる叙述を見つけ、「ひきあわない」と思ったごんの気持ちを読み取ることができる。
  - 授業のユニバーサルデザインの視点から
  - 前時までのごんの気持ちを関係図を使って視覚的に確認できるようにする。
  - ごんの気持ちを個人で書いたり、根拠となる叙述をノートに書いた後にはペアトーク、グループトークを入れ、全体での発表に自信をもって参加できるようにする。

学級集団作りの視点から、表出意欲を高め理解を促すことを目的に設定しています。  
①個人で考える → ②ペアやグループで伝え合う → ③全体の場で伝え合うという流れで行います。

#### 2 根拠 (U/D:ユニバーサルデザインの省略)

時	学習内容と活動	◎U/Dの視点からの支援 新評価	資料
5	前時までの学習を振り返り、本時の学習課題を設定する。 ○これまでの学習で読み取ってきたことを確認する。 - 会話文 - 情景 - うなぎのいたずらをしたごん - くひや松たけを持っていたごん ○本時は、4と5の場面(お倉山の晩)であることを確認する。	◎安心して学習が進められるように単元の学習計画を提示する。 ○前時までのごんの兵十に対する気持ちを関係図から確認する。 視覚情報で、本時の課題を捉えやすくしています。 ◎単元を通してごんの気持ちを読み取れることを確認する。	学習計画表 関係図
8	○叙述を聞きながら、ごんの気持ちがわかるところにサイドラインを引く。	◎新出漢字、読み方が難しい漢字には読み仮名をふって置く。【情-(1)-(1)】	
5	○会話文からごんの気持ちを全体で話し合う。 - 「へえ、こいつはつまらないな」 - 「ひきあわないな」	◎ごんの気持ちを3次元化した児童を表現したり、意見を認めたりする。【学-(1)-(1)】	
3	2 本時の学習課題を設定する。 お倉山の晩の「ひきあわないな」と思ったごんの気持ちを読み取ろう。	◎本時の学習目標や活動に迫る意欲を高めることで、考えることの楽しさや自信につなげ、集中を持続させる手立てにもなります。	
○「ひきあわないな」の意味を確認する。 - 引き合う - そんな気分 - 割に合わない	◎「ひきあわないな」が出てくる叙述に注目させ、叙述の中から意味を想像できるようにする。		
5	○兵十と加助の会話から、ごんがひきあわないと感じた理由を書ける。 - 神様とかんちがいされてごんがかりした - おれのしたことに気づいてほしい - ふしぎがっているけど、気づいてくれて少しうれしい - そんなにっかりしていいない	◎ごんの様子や行動のイメージを想像し、場面の様子を想像しやすくなる。【情-(3)-(1)】 ○意見が出なかった時は、兵十と加助の会話文を児童に読ませたり、もう一度朗読したりする。 ◎ごんの気持ちを3次元化した児童を表現したり、意見を認めたりする。【学-(1)-(1)】	挿絵
5	○自分の仕事に気づいてほしいというごんの気持ちがわかる叙述を見つける。 - あとをつけていきました - 井戸のそばにしゃがんでいました - かげぼうしをひきあひ - 月のいい晩なのに遊びに行かなかった 市販のキッチンタイマー等でも構いません。大事なことは、時間を視覚情報として示したり、音や量的に示したりすることで、終わりのタイミングを明確に伝えることです。	◎ごんの表情がわかる挿絵を用意し、どんな表情をしていたか想像し、そこから気持ちを想像できるようにする。【情-(3)-(1)】 ◎タイムタイマーを使って終わりの時間を事前に示す。【操-(2)-(1)】 ◎友だちの考えの違いに気づいたり、同じ考えは賛同したりする。	タイムタイマー
4	○自分が見つけたごんの気づいてほしいという叙述をペアの友だちと伝え合う。 子ども同士の学びあいによって、話しやすくし、思考を深めやすくします。	◎自分の考えに自信がない児童は、友だちの意見を参考にし、ノートに意見を書いて全員で話し合いに参加できるようにする。【学-(1)-(1)】	
7	○全体で話し合う。	○待てずに意見を言ってしまう児童には発表の順番を伝えておく。 ○児童の意見に寄り添って話し合いを進められるように配慮する。	
3	まとめをする。 ○4と5の場面のごんの気持ちを確認する。 - 神様とまろちがえられたけど、ごんのことには兵十が気づいてくれるのがうれしい - ごんはもっともっと兵十に近づきたい気持ちが高まった	◎根拠となる叙述を見つけ、「ひきあわないな」と思ったごんの気持ちを読み取ることができる。	
○関係図を確認する。 ○まとめを書く。 ごんの気持ちがもっと兵十に近づいた	◎関係図を示しながら、登場人物の心情の変化を確認する。【情-(3)-(1)】	関係図	
4	本時を振り返り、次時の課題を確認する。		

この時間に何を、どのように学ぶのかを明確にすることが大切です。必ずしも「主体的・対話的で深い学び」が、1単位時間の中ですべて実現されるわけではありません。

言葉での説明に関係図という視覚情報を加えることで、より理解がしやすくなります。情報提示が、2つ以上になるように考えることが必要です。

つぶやきや発言を受け止め、安心して表出できるようにします。また、それらを取り上げて全体で共有することも大切です。

学習のめあて（ゴール）を示すことで、学習の見通しを持たせ、意欲を高めめます。何を学び、どのように評価するかがポイントになります。

全員が対話によって自分の考えを広げたり、深めたりできるように、司会や発表の順番を決めたりすることも有効です。

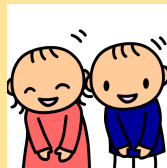
振り返りを行うことで、学びの成果を実感し、学んだことや意欲・問題意識等を次につなげられるようにします。また、キーワードや学習した用語を用いる等で、学習内容の定着も図ります。

次のページでは、「わかる授業」につながるポイントを簡単に例示します。

## わかる授業の流れ(例)

### ● 学習開始の気持ちを揃える

- (1) 休み時間に、次の授業準備をする。
- (2) 姿勢を正して、始業の挨拶をする。



全員の気持ちを「勉強がんばるぞ」という方向に向けることが大切です。

### ● 学習の見通しを示す

- (1) 学習の流れを提示する。
- (2) 学習のめあて（ゴール）を確認する。



最初に学習の流れを提示することで見通しを持ちやすくなります。また、めあて（ゴール）がわかることで意欲が高まります。

### ● 話す場面での工夫

- (1) 話す人に注目させる。
- (2) 具体的で、イメージしやすい言葉を用いる。



活動を止めて、聞くことに集中することで、理解が深まります。また、「〇分間、取り組みます」や「教科書の〇〇ページを開きます」のように具体的に伝えます。

### ● 個に応じた課題と評価

- (1) 全員が取り組める課題にする。
- (2) 次の課題を用意する。
- (3) 机間指導で評価と支援を行う。



「できる」や「わかる」の課題を設定することで、集中して取り組みます。また、次の課題を用意することで、個に応じた達成感や充実感も高めます。



子ども達が課題に取り組んでいる間は、机間指導を行います。一人一人の取組状況を把握するとともに、意欲を高める「評価」と、できるにつながる「支援」をします。